

京とげば源氏物語

中村幸子著
現代源氏物語
天保館書店

流れての頼めむらりさ竹河に
世は憂きものと思ひ知りなき



ものあはれ源流(の旅)
全五十四帖連続語り
第四十四帖

竹河後編
隔月連続公演
第五十一回
だけかわ

女房語り 山下智子

東長寺・文由閣
二十七年十一月九日(土) 十日(日)

ものあはれ源流(の)旅

日本の複雑に移り変わる自然環境を生き抜いてゆく智慧として、先人達は風土に培われた独特の感性を「ことば」に託してきまわした。

源氏物語には、目に見える物 見えないもの その感触や間合いに、触れずして触れ、香を聞くように五感を以て感覚を巡らせ実感してきた当時の人々の息づかいが、生き生きと感づられます。後の世に、心静かな浄土を思い描いた平安人。語りの担い手であった女房(女官)の間わず語りによる源氏物語は、私達日本人の心の原風景に出逢う旅でもあるのです。

女房語り 山下智子

山下智子プロフィール
京都市出身。仲代達矢主宰無名塾に学び、三島由紀夫近代能楽集「道成寺」「熊野」はじめ舞台、TVにて活動。2003年より声の表現中心に活動。NHKラジオドラマにレギュラー出演と作品提供。朗読劇、映像番組、交楽人形芝居での語り、電子辞書、大修館書店国文教科書CD等での朗読。「京ことば源氏物語」の女房語りを通し、失われゆく美しい京ことば、やまとの心を後世に伝えるべく各地で語り会をひらき国内のみならず海外でも好評を博している。東京、京都で全五十四帖連続語り会を開催。
<http://www.genji-kyokotoba.jp/>

国文学者中井和子先生

生粋の京女。府立大学で中古文学の教鞭を執りながら十五年の歳月をかけて源氏物語全五十四帖を今から百年程前の京ことばに全訳されました。失われつつある京のことはや感性を後世に残すために源氏物語ほど相応しいものはなかったと一人の京都人として誇りに思います。2009年1月永眠。

『京ことばで語る源氏物語』

宗教学者

山折哲雄先生

『源氏物語』五十四帖を「京ことば」で語る山下智子さんが、これまで誰もやらなかったこの大仕事を始めてから、もう十年になります。NHKドラマや芝居でキャリアを積まれた山下さんは、この京都の地を舞台に、現代に甦るまねな女房語りとして新たな挑戦をはじめることになりました。

『源氏物語』のほんとうの魅力、美しい京ことばのリズムにのせて、人々の耳に、そしてそのころにとけようというのです。谷崎潤一郎や与謝野晶子の現代訳ではとても経験することのできなかった『源氏物語』の奥座敷の光景を、ころゆくまで味わっていたらこうというわけでありませぬ。

「実のところは態度にあらわして 少将のようにも 悲しんだりはおしやせ(なんだのとすけど 人柄が それでも痛ましようみえます。 「竹河」の巻より

第四十四帖 【竹河 後編】 あらすじ

卯月九日、玉鬘の娘大君は冷泉院に入内、寵愛を受けるが、蔵人少将は大君への思いを断ち切れないでいる。薫もまた、今なお大君を思っている。翌年の正月、男踏歌が行われ、薫は歌頭を務める。蔵人少将も楽人として踏歌に加わり、辛い思いで再び「竹河」を謡うが、簾中から大君が見ているのではと気が気でない。大君に女官、次いで男御子が生まれると、すでに女官をもうけている弘徽殿女御側からの風当たりが強くなる。帝も相変わらず大君の院入内に不満を漏らすので、玉鬘は帝の心を宥めようと、尚侍を辞して代わりに中君を出仕させる。心休まらない大君を案じて時折参内する玉鬘だが、いまだ消えやらぬ院の懸想がうつつとしく、冷泉院を避けている。

左大臣が亡くなり、夕霧が左大臣に、按察大納言は右大臣となる。薫は中納言に、蔵人少将は宰相に昇進する。玉鬘は、苦勞知らずの境遇にある宰相をみるにつけ、後ろ盾のないわが子の昇進が遅いのを嘆く。



全五十四帖連続語り / 女房語り・山下智子
京ことば源氏物語

毎月連続公演 第五十一回
第四十四帖
竹河 後編

二〇一七年 十二月九日(土) 十日(日)
場所 東長寺文由閣講堂 www.tochoji.jp
電話 03-53315-4015 (当日のみ)

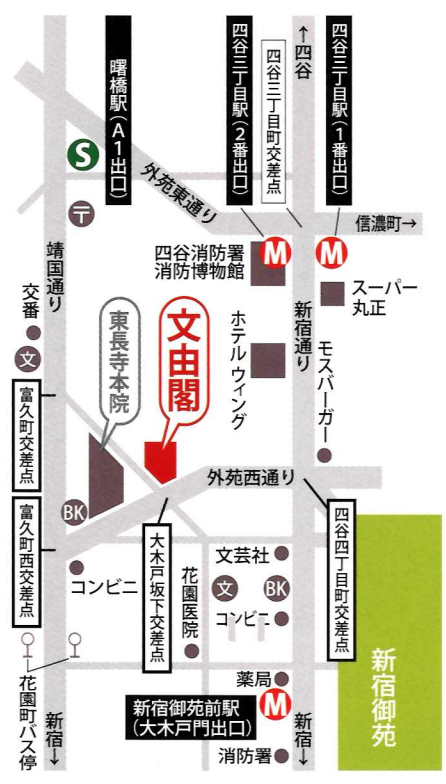
開演 午後二時(開場午後二時三〇分)
料金 前売り二五〇〇円 当日三〇〇〇円
新宿区民の方 御予約二〇〇〇円 当日二五〇〇円(要証明書)
お申し込み 紫苑語り会

電話: 075-2855-1017 (留守番電話)
*御名前、人数、御電話番号、何日の会かを録音して下さい。
間違いがあるとき、お受けませんのでゆくりと明瞭にお話し下さい。
インターネット
www.genji-kyokotoba.jp (ノックアウト連続公演)のフォームから)

主催 紫苑語り会
後援 社団法人紫式部顕彰会、古典の日推進委員会、新宿区
*協力・中井和子・音楽・嶋村よし江
*協力・東長寺・文由閣・株式会社大修館書店・早川誠司、和田周
木原真由美、石和田直子 ◎宣伝美術・鈴木衛・白崎まもる



山折哲雄



《最寄り駅》
M 東京メトロ丸の内線 新宿御苑前・四谷三丁目
S 都営地下鉄新宿線 曙橋
各駅より徒歩7~8分
《都営バス》
●新宿駅西口〜練馬駅(白61)
●花園町バス停
*駐車場はご利用になれません。

